

## 【定性的情報・財務諸表等】

## 1. 連結経営成績に関する定性的情報

## (1) 市場環境 (平成19年6月30日現在)

## ① 国内モバイル・インターネットの市場環境

日本国内における携帯電話の契約数は平成19年6月末現在で9,805万契約に達し、このうちインターネット接続可能な携帯電話が占める割合は87.3%となっております。また、平成19年3月末現在の第3世代携帯電話(3G)の契約数は7,469万契約と急成長を遂げており、モバイル・インターネット市場の成長を加速させる促進剤と考えられています。

3Gやパケット定額制の普及を背景に、平成18年のモバイル・コンテンツ市場は、対前年比16%増加し3,661億円に成長いたしました。また電子マネーやクレジットカード決済機能の搭載により、モバイル・コマース市場は平成18年には対前年比38%増の5,624億円となり、うちチケット購入サービスやオークション手数料等の収入を除いた物販系市場は対前年比68%増の2,583億円へ拡大しております。

さらには、モバイル広告市場についても、平成18年の市場規模390億円から、平成23年にはその3.3倍程の1,284億円迄の成長が予想されています。

(出所：社団法人電気通信事業者協会、モバイル・コンテンツ・フォーラム、株式会社野村総合研究所、財団法人マルチメディア振興センター、及び株式会社電通の各資料より当社作成)

## ② 国内通信販売の市場環境

平成17年度の国内通信販売業界全体の売上高(推計)は、3兆3,600億円と前年度比10%増となりました。PCや携帯電話等のインターネット経由での取引拡大が市場の伸びを後押しし、分野別には健康食品や化粧品、医薬品等が上位を占め、特に化粧品、医薬品は前年度比32%増と大幅な増加を示しております。

(出所：社団法人日本通信販売協会資料より当社作成)

## (2) 当四半期の経営成績

(四半期)

(単位：百万円・単位未満切捨)

	平成19年3月期 第1四半期		平成20年3月期 第1四半期		増減	
	金額	百分比 (%)	金額	百分比 (%)	金額	増減率 (%)
売上高	4,031	100.0	7,655	100.0	3,624	89.9
売上総利益	1,665	41.3	3,382	44.2	1,717	103.1
営業利益	37	0.9	338	4.4	300	802.9
経常利益	△307	△7.6	286	3.7	593	—
四半期純利益又は 四半期純損失(△)	△270	△6.7	53	0.7	324	—

## 経営成績(四半期)総括

当四半期における連結売上高は、引続き堅調に推移するモバイル・コンテンツ事業や、経営統合により前連結会計年度下期より連結を開始した株式会社JIMOSのコマース事業を主として、7,655百万円と対前年同期比3,624百万円増(89.9%増)の大幅な増加となり、四半期ベースで過去最高を更新いたしました。

営業利益につきましては、主力事業であるモバイル・コンテンツ事業の売上伸長や原価率の逡減効果、及びコマース事業の新規連結による売上総利益の増加に加え、販売費及び一般管理費の効果的なコントロールによる対売上高比率の低下もあり、338百万円と対前年同期比300百万円増(802.9%増)、対売上高営業利益率についても4.4%と対前年同期比3.5ポイントの改善となりました。また、経常利益は、損失を計上した前年同期に比し593百万円増の286百万円となりました。

四半期純利益は、法人税等の影響から、53百万円の計上となったものの、損失を計上した前年同期に比しては、324百万円の増加となりました。

(ご参考)

	1株当たり四半期純利益	ROE	EBITDA
平成20年3月期 第1四半期	186.33円	0.4%	566百万円

(注) EBITDA：営業利益+減価償却費+のれん定額償却費

## 事業種別セグメント売上高

(単位：百万円・単位未満切捨)

事業種別	平成19年3月期 第1四半期		平成20年3月期 第1四半期		増減	
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	金額	増減率 (%)
モバイル・コンテンツ事業	2,873	71.3	3,105	40.6	232	8.1
コマース事業	62	1.5	2,925	38.2	2,862	—
ソリューション事業	542	13.5	752	9.8	209	38.5
広告事業	30	0.7	351	4.6	321	—
投資事業	—	—	—	—	—	—
海外事業	522	13.0	521	6.8	△1	△0.2
合計	4,031	100.0	7,655	100.0	3,624	89.9

## ① モバイル・コンテンツ事業

主力事業であるモバイル・コンテンツ事業は、引続き、効果的なプロモーション戦略の奏功もあり、『江原啓之スピリチュアルメッセージ』等の主力コンテンツを中心とする会員数が堅調に推移し、売上高は3,105百万円と対前年同期比232百万円増(8.1%増)となりました。

## ② コマース事業

コマース事業は、前年下期より連結を開始した株式会社JIMOSの通販事業を主として、売上高は2,925百万円と対前年同期比2,862百万円増と大幅に伸長しました。引続き、新規顧客獲得策の実施や主力化粧品を対象とする既存顧客の購入リピート率向上、また、スリーブ顧客の新たな購買意欲喚起に向けた購入促進施策の実施に注力し、さらに、投資効率を重視したプロモーション展開を引続き行っております。季節的要因により当該通販事業は、当期についても四半期毎の業績変動は見込むものの、年間を通じ安定した収益確保を図ってまいります。

モバイルコマースにつきましては、グループに蓄積されたモバイルノウハウと販売(物販)ノウハウを最大限結集し、露出メディア、販売商品、広告クリエイティブ等の組み合わせパターン別の効果検証を徹底的に重ね、ノウハウの活用により、高い顧客獲得率・購入率が可能となるモバイルコマースプラットフォームの下期に向けた構築を鋭意進めております。

## ③ ソリューション事業

ソリューション事業は、前年第4四半期での連結子会社の売却による当四半期の一部減収要因があった一方、前年下期からの株式会社JIMOSのクライアント企業向け通販支援事業やECサイト開発子会社等の新たな収益連結により、売上高は、752百万円と対前年同期比209百万円増(38.5%増)となりました。

## ④ 広告事業

広告事業は、モバイル広告販売に加え、クライアント企業向け通販広告代理事業の収益貢献もあり、売上高は、351百万円と対前年同期比321百万円増となりました。モバイル広告においては、未だ規模は小さいものの、引続き配信対象会員数の着実な増加と顧客獲得率・購入率を重視した広告メディアの構築に注力しております。また、検索連動型広告(リスティング広告)等による新たなモバイル広告の開発も行っており、販売代理店の拡販及び直販営業力の体制強化により、更なる収益拡大を図ってまいります。

## ⑤ 投資事業

当四半期における投資事業の売上高計上はありませんでしたが、子会社の株式会社サイバード・インベストメント・パートナーズの運営・管理による「サイバード・プラスモバイル・ファンド」を通じ、当四半期においても、新たに1社への出資を行いました。これにより投資済み先が累計6社となり、引続き、投資案件の発掘に努めております。

## ⑥ 海外事業

北米コンテンツプロバイダーである連結子会社Airborne Entertainment Inc.の収益により、売上高は、521百万円となりました。現地における端末の高機能化が進み、3G系の動画コンテンツやゲームコンテンツ等の急速な成長を背景に、同子会社も市場ニーズへの対応に向けた3G系動画コンテンツの開発やモバイルによるB to B事業等の高付加価値サービスの提供に注力しております。